

# 平成24年度計画

公立大学法人福岡県立大学  
平成24年6月

<p>中期目標 1. 教育</p>	<p>「保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する資質を持った優秀な職業人を育成する。」</p> <p>(1) 特色ある教育の展開 福岡県立大学は、保健・医療・福祉の専門職としての実践的能力を身に付けさせるとともに、人間社会学部と看護学部の連携のもとで、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、現場において他の専門職種と協働できる能力を育成する。 人間社会学部については、今後の社会的ニーズに的確に対応するため教育内容の改革に取り組む。 看護学部については、医療の高度化・ニーズの多様化に対応するため、学部及び大学院を通じた教育の充実を図る。</p> <p>(2) 教員の教育能力の向上 教員の教育能力向上と教育活動の活性化を図るため、効果的なファカルティ・ディベロップメント(FD)等の組織的な取組を推進するとともに、授業評価システムを充実させ授業改善に活用する。</p> <p>(3) 意欲ある学生の確保 明確な入学者受入れ方針のもと、志願者動向の分析等を踏まえた、より効果的・戦略的な広報活動を展開し大学の魅力を広く伝えるとともに、入試方法の継続的な点検・見直し、高大連携の推進などにより、大学が求める資質を持ち、学ぶ意欲の高い学生を選抜する。</p> <p>(4) 学生支援の充実 学生の自主的・多面的な学習の支援、健康で充実した学生生活を送るための支援、自立した社会人・職業人となるための支援など、学生ニーズや社会状況を踏まえた学生支援体制の整備・充実を図る。</p>
-----------------------	---

中 期 計 画		平成 24 年 度 計 画		通し番号
項 目	実 施 事 項		ウエイト	
<p>1 教養教育の充実</p> <p>公立大学法人福岡県立大学の教養教育は、豊かな感性、柔軟な思考力、緻密な論理構成力および自己表現能力の習得をめざす。</p>	<p>1【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 &lt;人間社会学部&gt;&lt;看護学部&gt;</p> <p>①専門科目の基礎と社会人・職業人として身につけるべき教養科目を中心に、カリキュラムや科目内容を検討・改編する。</p> <p>○達成目標 ・学生の成績 : 教養科目全てを対象として C以上80%</p>	<p>1【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 &lt;人間社会学部&gt;&lt;看護学部&gt;</p> <p>○作業チームを編成し、強化すべき教養科目のカリキュラムや科目内容を検討する。</p> <p>○社会人・職業人として必要な知識・スキルを身につけるための新科目開設を検討する。</p> <p>○既設の「スキルアップ・ゼミ」コースの改善を検討・実施する。</p> <p>○達成目標 ・スキルアップゼミ4コースの開設 ・学生の成績 : 教養科目全てを対象として C以上80%</p>	1	1
	<p>2【教養演習・総合科目の改善】 &lt;両学部の教養演習、総合科目&gt;</p> <p>①学生の課題発見・解決能力、論理的思考力及び自己表現能力を高めるために、教養演習等における授業内容と方法を継続的に改善していく。 ・教養演習・総合科目の改善</p> <p>②語学について、従来の語学教育を見直し、アジアとともに発展する国際交流を推進させるために、アジア諸国の異文化理解と共にコミュニケーション能力を高める。 ・英語・中国語・韓国語教育の充実</p> <p>○達成目標 ・学生の成績 &lt;人間社会学部&gt;&lt;看護学部&gt; : 全学の教養演習及び総合科目において C以上 80% ・語学教育カリキュラムと科目内容の検討・改編 : 2科目増設</p>	<p>1【教養演習・総合科目の改善】 &lt;教養演習・総合科目の改善&gt;</p> <p>○教養演習の授業内容・方法の充実を図る。</p> <p>○学生により身近なものとするため、学生編集委員会を中心に、教養テキストの内容・イラストを含め改善する。</p> <p>○共通テキストの見直し・改善を行う。</p> <p>○総合科目内において、グローバル化へ対応するための新科目案と既存科目教育内容の変更について検討する。</p> <p>&lt;語学教育の充実&gt; ○英語カリキュラムと教育内容・方法の見直しについて検討する。</p> <p>○教養演習英語クラスの開設案を作成する。</p> <p>○異文化理解のための語学(中国語・韓国語)教育について検討する。</p> <p>○達成目標 ・学生の成績&lt;人間社会学部&gt;&lt;看護学部&gt; : 全学の教養演習及び総合科目において C以上 80%</p>	1	1

中期計画		平成 24 年 度 計 画		通し番号
項目	実施事項		ウェイト	
<b>2 専門教育の充実</b> 専門教育は、本学の特色を活かし、専門分野だけでなく、相互に他の分野にも対処できる能力を育成する。 人間社会学部では、現行のカリキュラム体制の見直しと再編を図り、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する福祉専門職、心理専門職、地域マネジメントに関する職業人の育成を図っていく。 看護学部では、社会的に実践能力の高い看護職が求められており、「学部における看護実践能力を育成するカリキュラムの充実・強化」が必要である。健康問題に対して広い視野から柔軟に対応し、創造的な解決策を提案できる看護師・保健師・助産師・養護教諭の育成を目指す。なお、助産師養成は平成27年度から大学院修士課程に移行する。 また、専門職としての規範意識の向上と職業倫理の涵養を強化する。 さらに、高度な地域保健福祉の総合的な実践、保健福祉サービス供給のシステムの中核を担うことのできる人材を育成する大学院教育の充実を図る。	<b>1【カリキュラムと科目内容の検討】</b> <人間社会学部><看護学部> ①専門教育充実の視点からカリキュラムと科目内容の検討を行う。  ○達成目標 ・シラバスの改善科目数 : 全専門科目 ・学生の成績 : 専門教育科目において C以上80%	<b>1【カリキュラムと科目内容の検討】</b> <人間社会学部> ○専門教育及び資格関係科目の充実に向けた教学体制の検討 <公共社会学部> ・教職課程の教学体制の強化 ・コース制の充実、特にアジア国際共生コースの充実の検討 ・コース・教育課程別のカリキュラムの検討 <社会福祉学部> ・平成25年度からの本格実施に向け、2年生のオリエンテーションの準備を行い、 <u>現行のカリキュラムの中で新カリキュラムでの実習方法等を検討</u> <人間形成学部> ・履修コース(心理、こども、社会教育)の専門科目、資格・免許科目の改善・充実を検討  <看護学部> ○保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正を受け、平成24年度から開始する新カリキュラムを滞りなく実施する。 ・教務部会で講義・演習・実習の実施状況を把握し、その結果を検討する。また必要時には修正を加える。 ・学生からの意見聴取(前期・後期各1回)を行い、その意見をカリキュラムの授業内容に反映させる。  ○専門職としての規範意識の向上と職業倫理を身につける。 ・新入生オリエンテーション、実習前オリエンテーションで強化を図る。 ・外部講師講演の検討を行う。  ○達成目標 ・シラバスの改善科目数 : 全専門科目 ・学生の成績 専門教育科目において : C以上 80%	1	3
	<b>2【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】</b> <看護学部> ①東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムの検討・実施 ホリスティック人間論、東洋看護学演習等の教育プログラム内容の検討  ○達成目標 ・学生の成績 : 教育プログラム C以上80%	<b>1【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】</b> <看護学部> ○東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムの実施 ・「ホリスティック人間論」の講義の実施 ・「東洋医学概論」「東洋看護学演習」等の教育プログラム内容の検討  ○達成目標 ・学生の成績 : 教育プログラム C以上80%		1

中期計画		平成 24 年 度 計 画		通し番号
項目	実施事項		ウェイト	
※2 専門教育の充実の 続き	<p>3【実践力強化のための実習教育の充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞</p> <p>①看護実践能力育成のための実習教育の充実 ②人間社会学部における実習教育の充実 ③実習前後における学習内容の充実</p> <p>○達成目標 ・看護学部における臨地実習指導体制の整備 ：実習指導者連絡会議開催 年1回以上 ・教育・保育・養護実習における事前事後指導の充実 ：事前事後指導科目3以上 75% ・学生の成績 ：事前事後指導科目 C以上80%</p>	<p>1</p> <p>【実践力強化のための実習教育の推進】 ＜看護学部＞ ○実習指導者連絡会議の内容を検討し、年1回開催する。 ○実習指導体制の実施を継続する。 ・臨床教授等の称号付与の実施及び検討を行う。 ・実習打ち合わせの充実を検討する。 ○看護基本技術習得支援の実施と項目の検討を行う。</p> <p>○実習の事前事後指導充実の検討を行う。</p> <p>＜人間社会学部＞ ○3学科がそれぞれ実施している実習教育について現状を分析検討し、課題を明らかにしていく。 ○公共社会学部における実習指導の充実 ・教育実習の事前・事後指導の内容について検討 ○社会福祉学部における実習指導の充実 ・社会福祉養成における事前事後指導・巡回指導体制の検討 ・実習中に特定の日を定め、大学に帰校してもらいグループで実習指導を実施 ○人間形成学部における実習指導の充実 ・実習の種類(保育所・施設、幼稚園)毎の問題点の検討</p> <p>○達成目標 ・看護学部における臨地実習指導体制の整備 ：実習指導者連絡会議開催 年1回以上 ・教育・保育・養護・社会福祉士実習における事前事後指導の充実 ：事前事後指導科目3以上 75% ・学生の成績 ：事前事後指導科目 C以上80%</p>	1	5
	<p>4【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】</p> <p>①保健・医療・福祉の現場の専門職を招聘し「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」の充実を図るとともに、選択科目としての単位化を検討する。 ②「両学部で学ぶ専門的連携科目」(「社会貢献論」、「社会貢献論演習」、「不登校・ひきこもり援助論」、「不登校・ひきこもり援助応用演習」)の充実を図る。 ③両学部の学生が共に海外の保健・医療・福祉の現場を訪れ、語学を学びながら現場体験を行う「海外語学実習」の実習先の開拓を行うとともに、その事前準備のための「海外語学演習」の充実を図る。 ④社会貢献フォーラムと公開卒論発表会の開催</p> <p>○達成目標 ・学生の成績 :C以上80%</p>	<p>1</p> <p>【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】 ○両学部の学生が連携の必要性を一緒に学習する教育プログラムを以下の順で実施 ・「社会貢献論」「社会貢献論演習」「不登校・ひきこもり援助論」「不登校・ひきこもり援助応用演習」 ・「海外語学演習」「海外語学実習」</p> <p>○社会貢献論演習での成果を社会貢献フォーラムにおいて発表する。</p> <p>○達成目標 ・学生の成績 :C以上80%</p>	1	6

中 期 計 画		平成 2 4 年 度 計 画		通し番 号
項 目	実 施 事 項		ウエイト	
	5【高度専門職業人の人材育成】 <人間社会学研究科> ①高度専門職業人の育成を重視したカリキュラム体制にしてい ため、人間社会学部の改革検討に合わせて大学院修士課程の 見直し検討を行う。 ○達成目標 ・充足率 (入学者数)／(入学定員) :100%	1【高度専門職業人の人材育成】 <人間社会学研究科> ○高度専門職業人の育成に向け、現カリキュラムの実態を検討 ・ <u>大学院生のニーズを把握する。</u> ○達成目標 ・充足率 社会福祉専攻 :100% 心理臨床専攻 :100% 地域教育支援専攻 :100%	1	7

中期計画		平成 24 年 度 計 画		通し番号
項目	実施事項		ウェイト	
	<p>6【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞</p> <p>①高度な看護専門職教育の充実 ②現場看護職の研究支援及び相互交流による高度実践能力の育成 ③大学間のがんプロフェッショナル連携の構築</p> <p>○達成目標 ・充足率（入学者数）／（入学定員）：100%</p>	<p>1【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞</p> <p>○高度な看護専門職教育の充実 ・専門看護師コース課程認定申請（精神看護） ・新たな専門看護師コースの認定申請準備（老年看護） ・既設の専門看護師コースの再検討/充実（がん看護） 実習に在宅看護実習を加え、充実を図る ○現場看護職の研究支援及び相互交流による高度実践能力の育成</p> <p>○大学間のがんプロフェッショナル連携の構築 ・「全国がんプロ」で作成したe-ラーニングクラウドに参加する。</p> <p>○ポストがんプロ実施については、新たに「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」に関する会議として開催する。</p> <p>○達成目標 ・専門看護師教育課程増設準備ワーキンググループ会議の開催 ・充足率（入学者数）／（入学定員）：100%</p>	1	8
※2 専門教育の充実の 続き	<p>7【他大学との連携による教育の充実】 ＜人間社会学部＞</p> <p>・専門領域に応じた他大学との連携による教育の充実＜人間社会学部＞ ・ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアムの構築＜看護学部＞</p> <p>①両学部において、専門領域に応じた他大学との連携プログラムを検証し、実施する。 ②看護学部においては、ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアムを構築し、講義の相互受講システム、大学連携による授業科目の提供など、教育の充実を図る。</p> <p>○達成目標 ・他大学との連携プログラムの件数：1件以上／年 ＜人間社会学部＞ ・大学間連携による開講科目数：1科目以上 ＜看護学部＞ ・ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアム会議 ：対面会議 1回／年 ：テレビ会議 2回以上／年</p>	<p>1【他大学との連携による教育の充実】 ＜人間社会学部＞</p> <p>○公共社会学科、人間形成学科（保幼、心理）、社会福祉学科に関連する他大学カリキュラムを検討する。 ・ワーキンググループを設置し、専門領域に応じた他大学との連携を検討 ＜看護学部＞</p> <p>○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの構築 ：コンソーシアム構築のための事務機能と事業について検討する。 ：コンソーシアム会議を年2回開催する。7月（沖縄） 12月（東京） ：合同研修会を1回開催する。</p> <p>○講義の相互受講システム、大学連携による授業科目の提供など、大学連携により教育の充実を図る。 ・大学間連携による科目を開講する。 ・14校で作成したDVDを活用する。</p> <p>○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの連携大学間の連携プログラムの検討 ・H23年度まで継続してきた7つの小部会毎にコンソーシアムでの継続プログラムを検討する。</p> <p>○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議の開催 ・連携大学でのコンソーシアム会議を開催する。 対面会議を博多サテライト教室で開催する。 1回以上／年 テレビ会議を開催する。 2回以上／年</p> <p>○達成目標 ・大学間連携による開講科目数：1科目 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議：対面会議 1回／年：テレビ会議 2回以上／年 ・DVDの活用：2科目</p>	1	9

中期計画		平成 24 年 度 計 画		通し番号
項目	実施事項		ウェイト	
3 教育効果を検証するシステムの構築  十分な教育と厳格な成績評価を行い、確実な知識と技術を身につけた専門職業人を育成する。その教育効果を検証するための評価システムを構築する	1【学生による授業活動評価の実施と有効活用】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞  ①学生による授業評価の継続的实施(前期、後期)とその結果に基づくFDセミナーの開催などを通じて教育内容の改善を図る。また学生との座談会等を実施する。  ○達成目標 ・学生による授業評価を反映したFDセミナーの開催 :年1回以上 ・学生による授業評価の回収率 :各授業科目の回収率70%以上	1【学生による授業活動評価の実施と有効活用】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞  ○学生による授業評価の実施(前期、後期) ・授業評価による授業改善目標の設定の促進について検討する。  ○授業評価の利用に関するFDセミナーの開催  ○学生による授業評価を聴取するため学生座談会を実施する。  ○学生による授業評価システムの検討(学生による授業評価をFDにつなげる仕組みの検討)  ○達成目標 ・学生による授業評価を反映したFDセミナーの開催 :年1回以上 ・学生による授業評価の回収率 :各授業科目の回収率70%以上	1	10
	2【アウトカム評価システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞  ①就職先へのアンケートを実施する。 ②卒業生の実態を把握するアンケートを実施する。 ③就職先の評価、卒業生の実態、就職先等を総合的に評価し、対応を考えるシステムを作る。  ○数値目標 ・アンケート内容の見直し :年1回以上 ・就職率(就職者数/就職希望者数) :95%以上 ・国家試験合格率 看護師 :98%以上 保健師 :90%以上 助産師 :90%以上 社会福祉士 :70%以上 精神保健福祉士 :70%以上	1【アウトカム評価システムの充実】 ＜人間社会学部＞  ○就職先アンケート内容の検討を行い、アンケートを実施する。  ○アウトカム評価システムを検討する。  ＜看護学部＞  ○国家試験不合格者全員に対して、卒業後の状況を把握し、個々に応じた支援(学習指導、メンタルサポート)を行う。  ○達成目標 ・アンケート内容の見直し :年1回以上 ・就職率(就職者数/就職希望者数) :95%以上 ・国家試験合格率 看護師 :98%以上 保健師 :90%以上 助産師 :90%以上 社会福祉士 :70%以上 精神保健福祉士 :70%以上	1	1
4 教員の教育能力の向上  学生にわかりやすい授業を提供するために教員の教育力向上を図る	1【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞  ①ワークショップや研修会などを企画し、実施し、授業改善に活かされたかを検証する。 ②教員間の授業参観システムの構築 ③Best Teacherによる公開授業の実施  ○達成目標 ・FD活動等への教員参加率 :100% ・学生の成績 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ :両学部の常勤教員の全教科において C以上80% ・教員間の授業参観システムの構築 :教員間の授業参観を実施 年1回以上	1【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞  ○FDセミナー(ワークショップや研修会など)を企画・実施し、授業改善に活かされたかを検証する。  ○教員間の授業参観システムの検討と試行  ○公開授業の方法や効果的な実施に向けた課題の整理  ○達成目標 ・FD研修会等教員参加率 :95% ・学生の成績＜人間社会学部＞＜看護学部＞ :両学部の常勤教員の全教科において C以上80% ・教員間の授業参観システムの構築 :試行年1回以上	1	12

中期計画		平成 24 年 度 計 画		通し番号	
項目	実施事項		ウェイト		
		2	<p><b>【教員のFD活動の推進】</b>            &lt;人間社会学研究科&gt;&lt;看護学研究科&gt;</p> <p>○大学院FD活動の推進            ・各専攻によるFD研修会議の開催(各専攻1回以上)            ・学外の講師によるFDセミナーの開催(1回)            ・学外で開催されるFDセミナーへの参加(2回以上)            ・学内の講師によるFDセミナーの開催(1回)            ・大学院生へのアンケート実施(1回)  <u>カリキュラム、授業、実習、修士論文作成等の観点及び総合評価について満足度を問う</u>            アンケート内容について、関係機関への回答依頼            アンケート回答について、大学院生との懇談会(1回)            FD活動の整理と記録</p> <p>○達成目標            ・大学院教員の大学院FD研修会への参加1回以上の教員:95%            ・大学院生の満足度:「中」以上:75%</p>	1	13
	<p>2<b>【他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進】</b>            &lt;人間社会学部&gt;&lt;看護学部&gt;</p> <p>①看護学部と臨床との看護ユニフィケーションを構築し、教員の臨床での継続教育への参画を企画、実践していく。            ②大学と臨床現場との看護実践・教育・研究が有機的に連携するために、臨床教授等と協働したワークショップや講習会などを企画し、実習指導力を向上させる。            ③両学部と他大学との情報共有しながら、教育能力向上のための合同研修会などについて、検討及び実施する。</p> <p>○達成目標            ・臨床との共同研究数 :1件以上/年            ・教員・指導者講習会実施数 :1回以上/年            ・教員の臨床継続教育者数 :1人以上/年            ・他大学との合同FD開催数 :1回以上/年</p>	1	<p><b>【他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進】</b></p> <p>&lt;人間社会学部&gt;            ○他大学との合同研修会などの検討  <u>・社会福祉養成協議会九州ブロックの加盟校として、研究大会及び合同研修会等を検討・実施する。</u>            ○ブラッシュアップのためのセミナーの検討</p> <p>&lt;看護学部&gt;            ○臨床と教育研究との連携を図り、以下の取組を行う。            ・臨床との共同研究を実施            ・教員と臨床教授等の合同講習会の検討            ・実習に関する他大学との研修会、FD等の検討</p> <p>○達成目標  <u>&lt;看護学部&gt;</u>  <u>・臨床との共同研究を実施 (1件以上/年)</u></p>	1	14

中期計画		平成 24 年 度 計 画		通し番号
項目	実施事項		ウェイト	
5 優秀な学生の確保 本学の教育目標にかなった、健やかで心豊かな福祉社会の創造に夢と意欲をもつ学生を質・量ともに確保する。	1【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 ①学部・大学院で育成すべき学生像に沿って定めた学生・院生の受け入れ方針をもとに行っている選抜方法が効果的な方法であるかを検討する。 ②入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との分析を行い、選抜方法などの見直しを行う。 ③高校や高校生との連携を深めるための高大連携事業について検討・実施する。 ④大学院の入試説明会を見直しながら実施する。  ○達成目標 ・志願倍率<各学科の志願倍率(一般入試)> (志願者数/募集人員) :公共社会学科 6.5倍以上 :社会福祉学科 6.0倍以上 :人間形成学科 7.5倍以上 :看護学科 5.5倍以上 ・辞退率<各学科> (辞退者数/合格者数(追加除く)) :両学部における辞退率 25%以下 ・充足率<大学院> (入学者数/入学定員) :大学院における充足率 100% ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む) 20回以上、 良好評価75%以上	1【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 <学部> ○アドミッションポリシーに合った質の高い学生を確保するために、以下の取組を行う。 ・入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との関連について、分析方法を検討するとともに入試選抜方式の見直しを行う。 ・高大連携事業につき、これまでの出前講義などの成果を踏まえ、新たな事業の検討を行う。  <大学院> ○大学院入試部会を複数回開催し、現状分析を行い、アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保について改めて検討する。 ○大学院入試説明会の検討  ○達成目標 ・一般入試の志願倍率(志願者数/募集人員) 公共(6.5倍)、社福(6.0倍)、形成(7.5倍)、看護(5.5倍) ・両学部における辞退率(辞退者数/合格者数(追加除く)):25%以下 ・充足率<大学院>(入学者数/入学定員) :大学院における充足率 100% ・出前講義数及びアンケート :20回以上、良好評価75%以上	1	15
	2【積極的な広報活動】 ①大学紹介のパンフレットの内容を改善する。 ②入試説明会の依頼には積極的に応じて大学をPRする。 ③オープンキャンパスは毎年アンケートをとり、実施内容を評価しながら改善に取り組む。 ④ホームページの入試ページの更新、内容の工夫をする。 ⑤大学祭など大学に外来者が来訪する機会を捕らえて、パンフレット配布等のPRを行う。  ○達成目標 ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート :1000名以上、良好評価 75%以上 ・入試説明会参加者数及びアンケート :10会場、良好評価75%以上 ・訪問高校数及びアンケート :30校、良好評価75%以上	1【積極的な広報活動】 ○広報活動等の改善の検討 ・受験生等が求める入試説明会について、実施方法を再検討する。 ・受験生等の知りたい入試情報を提供すると視点に立ち、高校訪問の実施方法を再検討する。  ○広報活動等の実施・修正 ・大学紹介パンフレットの作成 ・入試説明会への参加と大学PRの実施 ・オープンキャンパスでのアンケート実施・評価 ・ホームページの入試ページの内容を検討し、改善する ・大学祭等での来訪者へのパンフレット配布  ○達成目標 ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート :1000名以上、良好評価 75%以上 ・入試説明会参加者数及びアンケート :10会場、良好評価75%以上 ・訪問高校数及びアンケート :30校、良好評価75%以上	1	16

中期計画		平成24年度計画		通し番号
項目	実施事項		ウエイト	
6 学生支援の充実 学生の学習意欲を高める仕組みづくりを行うとともに、入学から卒業後までのキャリア形成支援体制を充実させ、学習・就職活動を支援する。	1【入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞  ①キャリアサポートセンターの個別相談機能を強化するとともに、センターと各学部・学科との連携を深め、学生一人ひとりに対応したキャリア形成支援を行う。 ②1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座の仕組みづくりを行い、実施する。また、キャリアサポートセンターの個別支援と連動させ、個々の学生の必要に応じた受講を促す。 ③1～2年次に行うプレ・インターンシップを充実させ、3年次以降のインターンシップにつなげる。 ④マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用した社会貢献活動やインターンシップ等の単位認定の仕組みを導入し、社会貢献・ボランティア支援センターと連携しながら実施する。 ⑤未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間、継続的なキャリア形成支援を行う。 ⑥優秀学生の表彰制度の構築やドロップアウト予防の学習支援体制の構築等、GPA制度の有効活用について検討・実施する。  ○達成目標 ・プレインターンシップ及びインターンシップ後の学生アンケート ：良好評価 75%以上 ・キャリア形成支援講座参加者アンケート ：良好評価 75%以上 ・GPA制度の活用状況調査 ：GPA2.0未満の学生面接率100% ・表彰制度の実施 : 表彰の実施(年1回)	1【入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞  ○学生のキャリア形成支援 ・キャリアサポートセンターの個別相談機能を強化として、4人のカウンセラーと学生支援班で事例検討を実施する。 ・キャリアサポートセンターと各学部・学科との連携を深めるため、教員とセンターの情報の共有化を図り、学生一人ひとりに対応したきめ細かなキャリア形成支援を行う。  ○1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座の仕組みづくりを検討する。  ○1～2年次に行うプレ・インターンシップを充実させ、3年次以降のインターンシップにつなぐ。  ○マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用した社会貢献活動やインターンシップ等の単位認定の仕組みを、社会貢献・ボランティア支援センターと連携しながら検討する。  ○未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間の経過について調査を行う。  ○優秀学生の表彰制度を実施し、GPA制度を活用しドロップアウト予防の学習支援体制の見直しを行う。  ○達成目標 ・プレインターンシップ及びインターンシップ後の学生アンケート ：良好評価 75%以上 ・キャリア形成支援講座参加者アンケート ：良好評価 75%以上 ・GPA制度の活用状況調査 ：GPA2.0未満の学生面接率100% ・表彰制度の実施 : 表彰の実施(年1回) ・キャリアサポートセンター利用数 : 利用者実数:250人以上、延べ1100件以上	2	17
	2【大学間の学生コンソーシアムの構築】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞  ①九州沖縄の大学間の学生コンソーシアムを構築し、学生間の交流を促進し、学生が主体的に学生コミュニティを作り、大学生としての「学びの文化」の創造を目指す。  ○達成目標 ・学生フェスティバルの開催 ：1回/年 学生参加数 県立大学から20名以上 ・学生コンソーシアム会議の開催 : 対面会議 2回以上/年	1【大学間の学生コンソーシアムの構築】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞  ○九州沖縄の大学間の学生コンソーシアムの構築 ・学生支援部会内に学生コンソーシアムを支援する教員の体制づくり ・規約の検討と策定 ・ケアリングSNSを活用した学生交流の促進  ○学生コンソーシアム会議の開催  ○学生フェスティバルの開催  ○達成目標 ・学生フェスティバルの開催 : 1回/年、学生参加数 県立大学から20名以上 ・学生コンソーシアム会議の開催 : 対面会議年2回	1	18
	3【大学院生支援の充実】  ①大学院生の入学から修了までの学生生活支援、教育研究活動支援を行う。 具体的には、学習及び研究環境に対する相談体制を整えるとともに、大学院生研究助成制度の新設、本学卒業生の大学院入学学金減免措置について大学独自の奨学金の創設・活用の検討・実施、大学院生の国内学会参加費補助制度の構築などを行う。  ○達成目標 ・助成金の実施状況 : 3件以上/年 ・国内学会参加費補助制度の活用件数 : 4件以上/年	1【大学院生支援の充実】  ○大学院生への相談体制の具体策の検討 ・大学院FD部会が実施したアンケートを活用し、現状を把握する。  ○研究助成金制度の検討 ・他の公立大学における大学院生を対象とした研究助成金制度の現状について調査する。  ○卒業生の大学院入学学金減免措置の検討 ・学部卒業生の大学院入学学金減免措置の実施を前提に必要な規定等について検討する。  ○国内学会参加費補助金制度の検討 ・他の公立大学における大学院生の国内学会参加費補助金制度の有無と実際について調査する。	1	19

中期計画		平成 24 年 度 計 画		通し番号	
項目	実施事項		ウェイト		
7 学習環境の充実 学部生及び大学院生がインターネット社会に対応した学習環境の中で、学習できる環境を整備する。また社会人学生が学習しやすい体制を整備することで、大学院志願者の増加をめざす。	1 【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞  学生の自主的学習を促すために、授業時間外の学習を支援するeラーニングシステムの活用を推進する。 ①eラーニングシステムの教育効果を上げる活用方法を検討する。 ②eラーニングシステムを改善する。 ③一定のコース開設数を維持する。 ④一定の学生の利用率を維持する。  ○達成目標 ・eラーニングコース開設数 : 100以上(平成26年度以降) ・学生の利用率 : 70%以上(平成26年度以降)	1 【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞  ○教員向け講習会の実施  ○eラーニングシステムの改善の検討  ○コース開設数調査の実施  ○学生の利用率調査の実施	1	20	
	2 【社会人が学びやすい学習環境の充実】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞  ①社会人が学びやすい学習環境の充実(サテライト教室の整備充実) ②既修得単位認定システムの整備(システムの明文化とHPでのインフォメーション) ③指導システムの充実 ④研究生制度の積極的活用  ○達成目標 ・アンケートによる満足度 :参加した社会人のアンケート調査における 良好評価 70%以上	1 【社会人が学びやすい学習環境の充実】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞  ○社会人が学びやすい学習環境にしていることをHPでインフォメーション ①既修得単位認定システム ②長期履修制度 ③研究生制度 ④博多サテライト教室で開講する授業が一部あること ⑤夜間開講、土曜日開講を行っていること ○博多サテライト教室の利用の促進のための検討 ①博多サテライトの学習環境としての整備についての検討 ②博多サテライト教室の存在を学内の教員に周知  ○レポートのWEB提出、コメントなどIT環境の整備の検討 ○図書館のデータベースの学外からの利用の検討  ○達成目標 ・学習環境としての博多サテライトの整備の方向性を探るアンケートを授業参加者 に実施し、今後どのような整備が必要かを明らかにする	1	1	21
	3 【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】  ①教育・研究活動支援の充実と研究情報公開の視点から機関リポジトリの導入 ②ラーニング commons の設置 ③平日の開館時間延長・土日開館の実施  ○達成目標 ・機関リポジトリ登録件数 : 新規登録数年30件以上 ・ラーニング commons 利用者数 : 月300名以上 ・開館延長時間内の利用者数 : 月200名以上	1 【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】  ○機関リポジトリを先行して導入している大学のハードシステム、専任職員などの状況に関する情報を収集する。  ○ラーニング commons を先行して設置している大学の設置形態、利用状況などを調査する。  ○平日の開館時間延長・土日開館にかかる経費・利用の見込等の試算を行い、本学で運用可能な具体案を作成する。	1	1	22

中 期 計 画		平成 2 4 年 度 計 画		通し番号
項 目	実 施 事 項		ウエイト	
8人間社会学部の改革 人間社会学部は平成4年の設置時に10年間を中途に大幅改組の予定であった。しかし、その間、改組はされておらず、あわせて受験数が減少していく動向にある。そのため、学生に魅力ある学部へと改革していくことが求められており、平成22年度には人間社会学部将来構想のワーキンググループによる将来構想が作成され、その後、学長を委員長とする将来構想検討会議で構想案を作成した。この構想案を基盤に、人間社会学部の改革を実施していく。	1【改革案の検討・作成】 ①将来構想を基に、具体的な検討のための組織を立ち上げる。 ②労働市場や学生のニーズ等を調査する。 ③平成25年度までに改革案を検討・作成し中期計画の変更を行う。  ○達成目標 ・改革案の作成 :平成25年度までに作成	1【改革案の検討・作成】 ○平成23年度にワーキンググループでまとめた将来構想を検討する。 ・平成23年度に作成した構想案の問題点を明らかにする。 ・新構想案の視点を明確にし、骨格を作る。 ○平成24年度は外部関係者の意見を聴取する。	2	23
9 両学部連携の大学院博士課程の新設 保健・医療・福祉分野で、国内のみならずアジアを中核に国際的に第一線の研究を展開していく研究者を養成していくために、人間社会学研究科と看護学研究科を統合した博士課程について検討して新設する。	1【大学院博士課程の新設検討】 ①人間社会学部の改革検討と併せ、具体的な検討を行う。 ②平成25年度までに改革案を検討・作成し、中期計画の変更を行う。	1【大学院博士課程の新設検討】 ○人間社会学研究科及び看護学研究科メンバーを中心としたワーキンググループを発足させ検討を行う。 ・ワーキンググループを発足させる。 ・看護・福祉分野の先発している他大学院の入試志願者、カリキュラム、修了者の就職状況等を調査する。 ・本学の大学院(博士課程)担当可能な教員数を調査する。 ・社会に求められる大学院博士課程の構成に向けて外部関係者の意見を聴取する。	1	24

26

24

○ウエイト付は、次の考え方をもとに行った。

①中期目標・中期計画に掲げられた項目ごとの目標 ②県評価委員会で指摘された工夫・改善、努力、期待項目の内容 ③自己評価において、中期計画項目で重点的に記述した内容

【ウエイト付けの理由】

- ・6-1-1 在学生のキャリア形成支援とともに卒業後までのキャリア形成支援体制を強化し、キャリアサポートセンターと各学部・学科との連携を深めていく。
- ・8-1-1 今後の社会的ニーズに的確に対応するため、人間社会学部の改革は喫緊の課題であり、重点的に取り組む。

<p>中期目標 2. 研究</p>	<p>「大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。」 国内外の大学や試験研究機関との共同研究、企業、行政機関等との連携を通じ、大学の特色ある教育や地域の保健・医療・福祉の発展に有用な研究を重点的に推進する。 研究成果については、積極的に公表し、社会に還元する。</p>
-----------------------	--

中 期 計 画		平成 24 年 度 計 画		通し番号
項 目	実 施 事 項		ウエイト	
<p>1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進</p> <p>特色ある研究を推進し、特に地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究を推進する。 学術交流大学等との保健・福祉分野における学際的共同研究を実施し、研究成果を国内及びアジア諸国に広く公表していくことで、地域とアジアの保健・医療・福祉の推進に寄与していく。 また、外部研究資金を獲得し、研究を活発にする。</p>	<p>1【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】</p> <p>4センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。 ①地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトを推進する。 ②学際的研究プロジェクトの成果を学内外に公表する。 ③附属研究所などを窓口及び活動拠点とした産学官連携を積極的に推進する。 ④協定校及び今後提携する海外の優れた教育機関や研究機関との研究者や学生、院生の交流を促進する。 ○達成目標 ・学際的研究プロジェクト数 :3件以上/年 ・学際的研究プロジェクトの成果発表会 :隔年1回開催 ・学際的研究プロジェクトの報告書発刊 :隔年1回発刊 ・日中韓等における保健・医療・福祉分野における学術的共同研究の活性化 :シンポジウムの開催 隔年1回 ・産学連携契約件数 :年間2件(継続を含む) ・知的財産セミナーの開催 :年1回 ・メールマガジン(イベント、セミナー、公募事業の紹介)の発行 :年12回以上 ・研究シーズ発表会への参加 :3名以上(口頭発表、ポスターセッション等) ・論文数(査読付き、学術掲載文) :人間社会学部年間 40件以上 看護学部年間 40件以上 ・学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) :人間社会学部年間 10件以上 看護学部年間 10件以上 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 :共同研究数 2件以上/年 招聘件数 2件以上/年 ・提携協定校との共同研究の応募状況 :共同研究応募件数 3件以上/年</p>	<p>1【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】</p> <p>4センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。 ○地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトを把握し、内容を検討する。 ○学際的研究プロジェクトの成果を学内外に発表する方法について検討する。 ○附属研究所などを窓口及び活動拠点とした産学官連携を積極的に推進するための学内広報に努める。 ○協定校(大邱韓医大、北京中医薬大学、三育大、南京師範大、コンケン大)及び今後提携する海外の優れた教育機関や研究機関との研究者や学生、院生の交流を促進するための戦略について検討する。 ○達成目標 ・学際的研究プロジェクト数 :3件以上/年 ・学際的研究プロジェクトの成果発表会 1回 ・産学官連携契約件数 2件(継続含む) ・知的財産セミナーの開催 1回 ・メールマガジンの発行 12回以上 ・研究シーズ発表会への参加 3名以上 ・論文数(査読付き、学術掲載文) :人間社会学部年間 40件以上 看護学部年間 40件以上 ・学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) :人間社会学部年間 10件以上 看護学部年間 10件以上 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 共同研究数 2件以上 招聘件数 2件以上 ・提携協定校との共同研究応募件数 3件以上</p>	2	25
		<p>2【外部研究資金の獲得の推進】</p> <p>①外部研究資金獲得を支援するための組織を学内に設立する。 ②科研費の応募率を上げるとともに科研費応募/獲得による教員評価システムの検討と実施 ○達成目標 ・外部研究資金獲得件数、金額 :年間30件以上、年間4,000万円以上 ・科学研究費応募率 :80%以上 (現在科研費による研究課題を持っている教員は除く)</p>	<p>1【外部研究資金の獲得の推進】</p> <p>○外部研究資金獲得支援部門設立の検討 ○科研費応募者へのインセンティブ制度の検討 ○科研費応募率向上のための研修会の開催 ○達成目標 ・外部研究資金獲得件数、金額 :年間30件、年間4,000万円以上 ・科学研究費応募率 :80%以上(現在科研費による研究課題をもっている教員は除く)</p>	1

中期計画		平成 24 年 度 計 画		92/93
項 目	実 施 事 項		ウエイト	号
	<b>3【研究倫理の徹底】</b> ①研究倫理審査体制の整備のために研究倫理委員会委員の研修参加を推進 ②学外者を含めた審査体制の検討 ③動物実験に関する委員会の開催及び動物実験実施ガイドラインの徹底 ④若手研究者に対するセミナーを開催し、倫理指針の徹底を図る。  ○達成目標 ・学外での研修参加：年1人以上(研究倫理委員会委員) ・セミナー開催：年1回(平成25年度以降) ・動物実験に関する委員会(倫理審査を含む)：年2回以上	<b>1【研究倫理の徹底】</b>  ○研究倫理審査体制の整備 ・研究倫理委員会メンバーに対する研修会参加の推進 ・学外者を含めた審査体制の検討(学外者に入ってもらふ審査の基準を決定する)  ○動物実験に関する委員会開催及び実施ガイドラインを徹底するための取り組みを検討  ○若手研究に対するセミナー開催での倫理指針の徹底 ・セミナー開催に向けての準備  ○達成目標 ・学外での研修参加:年1人以上(研究倫理委員会委員) ・動物実験に関する委員会(倫理審査含む)年2回以上	1	27

【ウエイト付の理由】

4

3

・1-1-1 超高齢時代を迎え、「健やかで心豊かな福祉社会づくり」に寄与するプロジェクト研究が重要となっている。本学の特色として附属研究所の共同プロジェクトを重点化する必要がある。

中期目標 3. 社会貢献	「大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。」 大学の特色を活かして、看護師、保健師、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士等のキャリアアップに資する教育プログラム等の実施や、地域住民の健康と福祉の向上に貢献する取組を積極的に実施する。 また、国際化を推進するための体制を強化し、アジアをはじめとする海外の大学等との交流を充実させる。
-----------------	---

中 期 計 画		平成 2 4 年 度 計 画		通し番号
項 目	実 施 事 項		ウエイト	
<b>1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進</b> 保健・福祉に関わる人材育成のために、アジアの大学等と相互の教育・研究を促進する。	<b>1【国際交流センター(仮称)を中心とした教育研究の国際化推進体制の検討】</b> ①福祉系総合大学として、中国・韓国等の大学と保健福祉の実情について情報交換及び発信を行う。 ②地域住民との連携事業による地域の国際化を視野に入れた文化交流プログラムの共同開発を行うとともに、教育研究の国際化推進体制を検討する。 ③ゲストハウスなどの受け入れ体制整備の検討を行う。こうした事業を推進するために国際交流センター(仮称)を開設する。  ○達成目標 ・教員交流数 : 延べ20名以上/年 ・文化交流プログラムの実施 : 1回以上/年	<b>【国際交流センター(仮称)を中心とした教育研究の国際化推進体制の検討】</b> ○国際交流センター(仮称)立ち上げの検討 ・国際交流部会を中心とした国際交流に関する業務の一元化体制整備の検討(規程策定、役割機能の明確化、等)  ○地域住民との連携事業として文化交流プログラムを共同開発するための検討 ・田川市郡との包括的連携事業として継続的に取り組める文化交流プログラム案を検討する。  ○協定締結校との文化・学術交流事業の実施 ・北京中医薬大学への看護学部学生の短期文化・学術交流研修の実施 ・大邱韓医大学校、三育大学校、北京中医薬大学、南京師範大学、コンケン大学との教員交流の推進  ○達成目標 ・教員交流数 : 延べ20名以上/年 ・文化交流プログラムの実施 : 1回以上/年	1	28
	<b>2【留学生への支援体制の充実】</b> ①短期研修制度の充実:短期研修制度の拡充により、派遣留学先の情報・魅力を学生に十分に提供し、支援する。 ②派遣中の学生への支援:派遣期間中の留学生の修学・生活上の問題点等を、留学に関するアンケート等により把握し、支援する体制を作る。 ③受入留学生の新たな支援について検討・実施する。 ④短期派遣留学生の奨学金・交換留学協定締結について検討・実施する。  ○達成目標 ・留学を経験した学生の報告会 : 年1回以上 ・受入留学生数 : 30人以上(私費留学生を含む)/年	<b>【留学生への支援体制の充実】</b> ○学生の海外短期語学研修の実施 ・ハワイ大学語学研修の実施 ・英国(オックスフォード市等)短期語学演習(単位認定)の実施 期間:2週間と4週間のコースを設定  ○派遣留学生(交流協定校への1年間派遣留学)への支援策の検討  ○受入留学生の増加対策の実施 ・受入留学生のホストファミリー先確保の継続 ・受入留学生に対する更なる支援制度の整備 アンケート調査等により、受入留学生の支援体制の問題点を整理し体制の充実を図る。 ・受入留学生に対する日本語教育の充実  ○短期派遣留学生(交流協定校への長期休暇時1~2カ月派遣)の検討  ○交換留学協定締結の検討  ○達成目標 ・留学を経験した学生の報告会:年1回以上 ・初年度は受入留学生10名以上(私費留学生含む)	1	29

中期計画		平成24年度計画		通し番号
項目	実施事項		ウエイト	
1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進の続き	3【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】 ①世界記憶遺産に登録された山本作兵衛氏の日記・絵画の一部を県立大学で所管していることから、産炭地の歴史や記録資料(日記や絵画を含む)を英文に翻訳し、それをインターネット等を通じて世界に発信すると同時に、世界各国の産炭地に所在する大学との学術交流をおこなう。  ○達成目標 ・英文アーカイブ化の基礎となる日本語資料の翻訳 :平成27年度までに作成	1【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】  ○世界記憶遺産に登録された山本作兵衛氏の日記・絵画の一部が県立大学に所蔵されていることから、これらの保存・活用について所有権等保持者を交えた会議を開催して資料公開の検討を行う。  ○達成目標 ・所有権等保持者を交えた資料公開検討会議開催 ・地域の方々との日記現代語訳作業会議の開催	1	30
2 県立三大学、福岡県、田川市郡との連携による社会貢献の推進 地域の抱える課題を解決していくために、附属研究所が核となって県立三大学、福岡県、田川市郡との連携を深めた取組を展開していく。	1【附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進】 ①福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進 ②田川市郡との包括連携事業の推進 ③県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施  ○達成目標 ・福岡県・田川市郡との産学官連携事業の実施 :1件以上/年 ・田川市郡との包括連携事業の実施 :5件以上/年 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 :1企画以上/年	1【附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進】  ○福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進 ・連携協定に基づき、共同研究事業等の連携事業を実施する。 ○田川市郡との包括連携事業の推進 ・田川市郡1市6町1村と福岡県立大学との包括連携体制に向けて協議し、協定を締結する。 ○県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの検討 ・県立三大学連携推進会議で協議する。  ○達成目標 ・福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進 :1件以上/年 ・田川市郡との包括連携事業の推進 :2件以上/年(継続含む) ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの検討 :1企画以上/年	1	31
3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進 附属研究所(生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンター、社会貢献・ボランティア支援センター)を核に、健やかで心豊かな福祉社会の実現に貢献する。また、大学の社会貢献活動に関する情報を積極的に発信し、地域に貢献する大学としての認知度の向上を図る。	1【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ①生涯福祉研究センターの事業推進 ②ヘルスプロモーション実践研究センターの事業推進 ③不登校・ひきこもりサポートセンターの事業推進 ④社会貢献・ボランティア支援センターの事業推進  ○達成目標 ・参加者・相談者アンケート :良好評価75%以上	1【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 (生涯福祉研究センター)  ○福祉・教育・健康の相談事業の実施・拡充 ・お父さんお母さんの学習室の運営 ・「足と靴の相談室」の運営他2事業の実施  ○地域活動の強化 ・ボランティア養成ワークショップの開催他4事業の実施  ○達成目標 ・ボランティア養成ワークショップの開催(月1回、参加者数:延べ35人以上) ・福祉用具研究会の開催(隔月1回:6回以上) ・参加者・相談者アンケート :良好評価75%以上	1	32

中期計画		平成 24 年 度 計 画		通し番号	
項目	実施事項		ウエイト		
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	※【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】の続き	2	<p><b>【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】</b> (ヘルスプロモーション実践研究センター)</p> <p>①健康教室の実施・修正 ○地域活動の強化 ・癒しの空間およびヒーリング講習会継続実施 ・世にも珍しいマザークラスinたがわ</p> <p>○支援的環境づくり ・地域住民と共に創造する筑豊の健康長寿文化 : 高齢者宅訪問: ○個人技術 ・パパママは名医だぞ ・保育看護学習会(保育士対象) ・世にも珍しいマザークラスinふくおか</p> <p>○健康大使制度の運用</p> <p>②福祉・教育・健康の相談事業の検討 ○県立大学女性と子どものためのスペース「ら・どんな・まんま」 ○性の健康に関する事業 ○がんセミナー</p> <p>○達成目標 ・健康教室等: 20件 ・参加者数: 延べ 800名 ・参加者アンケート: 良好評価 75%以上</p>	1	33
		3	<p><b>【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】</b> (不登校・ひきこもりサポートセンター)</p> <p>○県大子どもサポーター派遣事業の実施</p> <p>○教員対象研修事業の実施</p> <p>○キャンパススクールの事業</p> <p>○達成目標 ・サポーター派遣人数: 140名以上 ・教員対象研修回数 : 10回以上 ・キャンパス・スクール受入れ児童数: 20名以上 ・登校開始率: 37% ※ 登校開始率とは、・・・キャンパススクールから在籍校に定期的・非定期的に通学を開始した児童・生徒の率(1年間)。</p>	1	34
		4	<p><b>【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】</b> (社会貢献・ボランティア支援センター)</p> <p>○ 学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施 ・学生の社会貢献・ボランティア活動を求める外部団体の情報を学生に提供する。 ・社会貢献・ボランティア活動を希望する学生の相談に応じ、学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートを行う。</p> <p>○ 学生が主体的に形成する社会貢献・ボランティア活動への支援 ・学内のボランティアサークルとの懇談会や個別の相談対応等を通じて、学生ボランティアサークルの課題を把握し、課題解決に向けたアドバイスを行う。 ・地域と連携して社会貢献活動に取り組む学生や学生グループに対して、会議室などの活動の場の提供、各種の外部団体との連絡調整、相談対応・アドバイス等の支援を行う。</p> <p>○ 学生の社会貢献・ボランティア活動の普及と質の向上 ・社会貢献・ボランティア活動に関する学習会や研修会を企画・実施する。</p> <p>○達成目標 ・外部団体・機関登録数 90件以上 ・センターのコーディネートにより活動を行った学生数 300人(延) ・社会貢献フォーラムの開催 年1回</p>	1	35

中期計画		平成24年度計画		ウェイト	通し番号
項目	実施事項				
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	2【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】	1	<p>【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】</p> <p>○資格・免許保持者等への力量形成にむけた教育と卒業生へのキャリアサポートの実施 卒業生への看護技術内容のための調査内容および追跡調査の検討</p> <p>【生涯福祉研究センター】</p> <p>○地域支援の充実 ・「特別支援教育・スキルアッププログラム」の実施 他3件</p> <p>○教育研修活動の実施 ・「山本作兵衛さんを「読む」会」の実施・運営と情報公開について再検討 ・「筑豊英語教員フォーラム」の実施・運営(月1～2回) 他7件の活動実施 ・リカレントセミナー「今後の社会福祉制度改革を考えるー障害者自立支援法の改正を中心にー」の開催</p> <p>【ヘルスプロモーション実践研究センター】</p> <p>○リカレント教育 ・身体活性化&lt;世にも珍しい&gt;マザークラス医療者向けセミナーの開催 他4教育を実施</p> <p>○達成目標 ・専門分野を深める講習会、研究会の開催回数 ：各ライセンス向けのリカレント実施数 年間1回以上 ・看護師対象のリカレント教育 1事業/年以上 ・助産師対象のリカレント教育 1事業/年以上 ・保健師対象のリカレント教育 1事業/年以上 ・卒業生参加数 :各学部卒業生参加数 :年間10名</p>	1	36
	3【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】	1	<p>【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】</p> <p>○附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター等)の全国モデルとしての展開</p> <p>○公開講座の実施</p> <p>○世界記憶遺産「山本作兵衛の日記等」の保存及び公開</p> <p>○附属研究所関連研究分野における大学または研究所間の全国ネットワークの組織の検討</p> <p>○達成目標 ・学会・県外研修会等における附属研究所活動紹介の回数 :年5回以上 ・公開講座の実施回数 :年3回以上開催</p>	1	37
	4【看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実】	1	<p>【看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実】</p> <p>○リカレント教育等の実施(看護実践教育センター) ・福岡糖尿病患者教育研究会の定期開催 : 年4回以上 ・同窓生によるフォローアップ研修会 : 年1回以上 ・リクルートのためのリカレントセミナーの開催 : 年1回以上</p> <p>○糖尿病健康教育活動の実施 ・地域住民・企業等を対象に、糖尿病予防・療養等に関する出前講義 : 年3回以上 ・医療・福祉・保健分野で働く人々からの糖尿病に関する相談対応</p> <p>○積極的広報活動 ・ホームページの充実 ・健康教育活動の告知・募集の実施</p> <p>○達成目標 ・入学試験志願倍率(志願者数/募集人数) 1.5倍 ・認定審査合格率 90% ・患者教育研究会延べ参加者数 30名以上 ・セミナー参加者数 50名以上、参加者アンケート 良好評価75%以上 ・糖尿病予防教育(出前講義) 開催回数3回以上、参加者アンケート 良好評価75%以上</p>	1	38

<p>中期目標 4. 業務運営</p>	<p>「理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善を推進する。」                  大学は、理事長のリーダーシップのもと、自律性を確保しつつ、社会のニーズに対応するため、柔軟かつ機動的に教育研究体制を整備し、大学運営の改善を推進する。                  多様化する大学運営の課題に対応するため、専門性を備えた人材の確保・育成を図る。</p>
-------------------------	---

中 期 計 画		平成 2 4 年 度 計 画		通し番号
項 目	実 施 事 項		ウエイト	
<p>1 運営体制の改善 理事長のリーダーシップのもと、社会のニーズに対応するため、柔軟かつ機動的に教育研究体制を整備するとともに、多様化する大学運営の課題に対応するため、専門性を備えた職員の人材確保・育成など、大学運営の基盤強化を図る。</p>	<p>1【事務局機能の強化】</p> <p>①大学に特有な業務の機能を強化するため、段階的にプロパー職員の採用を進める。                  ②徹底的な事務処理の見直し、業務マニュアルの作成、情報の共有化により、事務作業の簡略化を検討する。                  ③事務職員の資質の向上と教育現場に関わる者として意識の向上を図るため、SDのシステム化を推進する。                  ④研究や活動内容等をデータベース化し、蓄積した情報を有効活用する。                  ⑤防災・防犯対策や学生の事故防止のため安全管理体制の充実を図る。                  ⑥より機能的な事務体制の実現に向けて、県立三大学の事務処理の共通化を検討・実施する。</p> <p>○達成目標                  ・プロパー職員の採用 :平成27年度まで8名以上</p>	<p>1【事務局機能の強化】</p> <p>○事務局機能強化に向けた専門性を要する部署へのプロパー職員の登用                  ○異動に伴う引継等における各部署における業務マニュアルの作成                  ○公立大学協会主催の事務職員を対象とした研修への参加                  ○平成24年度は、事務局情報のデータベースから構築                  ○より一層の安全管理体制の充実を図るため、既存の防災マニュアルの見直し                  ○県立三大学の事務処理において、経費削減効果が見込める事務処理の共通化検討</p> <p>○達成目標                  ・プロパー職員の採用 :平成25年度2名採用</p>	1	39
	<p>2【教員の志気を高める教育環境の整備】</p> <p>①教員表彰制度(Best Teacher's Award・研究費優遇・学内外公表等)の創設                  ②研究経費の全学的視点からの戦略的配分を推進するため、理事長裁量経費としての研究奨励交付金制度の充実                  ③担当科目数の平準化</p> <p>○達成目標                  ・教員表彰の実施(Best Teacher's Awardを含む) :毎年度の表彰                  ・研究費に占める研究奨励金の割合 :30%</p>	<p>1【教員の志気を高める教育環境の整備】</p> <p>○教員表彰制度委員会を設置し、Best Teacher's Awardを含む表彰制度を作る。                  ○現行の研究奨励交付金制度を見直し、趣旨を拡充する視点から制度を改善する。                  ○担当科目数平準化のため、常勤教員の授業担当科目数の実態調査を行う。</p> <p>○達成目標                  ・教員表彰の実施(Best Teacher's Award含む)                  ・研究費に占める研究奨励金の割合 :30%</p>	1	40
	<p>3【教員の個人業績評価システムの改善】</p> <p>①教員の個人業績評価システムを改善し、効率化を図るとともに、より妥当な評価基準を作成する。                  ②個人業績評価基準見直し検討委員会を設置し、先行している国立大学や公立大学の実態を調査、教員に対するヒアリングの実施、第一期における個人業績評価結果の分析を行い、改善案を策定する。</p>	<p>1【教員の個人業績評価システムの改善】</p> <p>○教員個人業績評価基準の見直し・検討を行う。                  ・<u>個人業績評価基準の見直しに関する委員会の設置</u>                  ・<u>先行している他大学の実態の調査</u>                  ・<u>教員に対するヒアリングの実施</u>                  ・<u>第一期の評価結果の分析</u></p>	1	41
	<p>4【リスクマネジメント体制の整備】</p> <p>①他大学の体制調査・リスクの洗い出し作業等を実施する。                  ②リスクに対応したマニュアルを作成してリスクマネジメント体制を整備する。</p>	<p>1【リスクマネジメント体制の整備】</p> <p>○他の公立大学のリスクマネジメント体制の調査                  ○潜在するリスクの洗い出し作業の実施</p>	1	42

4

4

<p>中期目標 5. 財務</p>	<p>「経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。」                  大学は、その運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、不断の経営努力を行う。                  収入については、教育研究活動等の活性化のため外部資金の獲得に積極的に取り組むなど、自己収入の増加に努める。                  経費については、適正執行に努めるとともに、業務の効率化や人員配置の見直しを推進する。</p>
-----------------------	--

中 期 計 画		平成 2 4 年 度 計 画		通し番号
項 目	実 施 事 項		ウエイト	
<p>1 自己収入の積極的確保 外部研究資金等の確保に対する取組を強化することにより自己収入の積極的確保を図る。</p>	<p>1【外部研究資金等の積極的確保】</p> <p>①受託研究、受託事業などの外部研究資金等の積極的獲得に全学的に取り組む。外部研究資金等獲得に向けた支援体制を整備する。                  ②民間企業や同窓会組織に対して、寄附金等を増加させるための広報活動を戦略的に実施し、自主財源基金化スキームの実現に向けて検討する。</p> <p>○達成目標                  ・外部研究資金等獲得額：年間5,000万円以上</p>	<p>1【外部研究資金等の積極的確保】</p> <p>○外部研究資金獲得支援部門設立の検討                  ○科研費応募者へのインセンティブ制度の検討                  ○科研費応募率向上のための研修会の開催                  ○民間企業や同窓会組織に対して、寄附金等を増加させるための広報活動を行う</p> <p>○達成目標                  ・外部研究資金等獲得件数、金額：年間 5,000万円以上                  ・科学研究費応募率：80%以上(現在科研費による研究課題をもっている教員は除く。)</p>	2	43
	<p>2 運営経費の削減・抑制 業務改善による経費の削減と人件費の抑制に取り組む。</p>	<p>1【業務改善による経費の削減】</p> <p>①事務処理方法の見直しや外部委託などの業務改善を実施し経費の削減を図る。                  ②エコ・省エネ型キャンパスの実現を図る。</p> <p>○達成目標                  ・年度計画で設定</p>	<p>1【業務改善による経費の削減】</p> <p>○物品購入等の発注方法の見直しの検討                  ・消耗品の集中発注や単価契約等の範囲拡大を検討                  ○初期投資を要さない省エネ対策(節電対策)の推進</p> <p>○達成目標                  ・業務改善件数 1件以上/年</p>	1
	<p>2【人件費の抑制】</p> <p>①教育研究水準の維持・向上に配慮しつつ、人件費の抑制を図る。</p> <p>○達成目標                  年度計画で設定</p>	<p>1【人件費の抑制】</p> <p>○教育研究水準の維持・向上に配慮した退職教員の補充における若手教員の採用                  ○週休日の時間外勤務振替の徹底及び時間外勤務の縮減</p> <p>○達成目標                  ・平成24年度時間外勤務時間数が前年度を下回ること</p>	1	45

4 3

【ウエイト付の理由】

・1-1-1 法人の収入増を図るためには様々な取組が必要である。産学官連携等による外部研究資金の確保に取り組んでいるが、中でも科研費等の外部資金の獲得がより重要である。更には広報活動の強化や同窓会組織等への働きかけなど戦略的取組を行っていく。

<p>中期目標 6. 評価及び情報公開</p>	<p>「評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。」                  (1) 評価                  教育・研究その他大学運営全般についての自己点検・評価を厳正に実施するとともに、福岡県公立大学法人評価委員会の評価及び認証評価機関の評価を、大学運営の改善に速やかに反映させる。                  (2) 情報公開                  学生や保護者等に対し適切かつ迅速に情報を提供するとともに、社会のニーズに適応した大学情報を積極的に公開し大学の存在感を高める。</p>
-----------------------------	--

中 期 計 画		平成 2 4 年 度 計 画		通し番号
項 目	実 施 事 項		ウエイト	
<p>1 自己点検・評価の効率的な実施 自己点検・評価及び各種評価結果を大学運営に反映し、改善を図る。</p>	<p>1【自己点検・評価の見直しと実施】</p> <p>①中期目標の実現を目指して、計画的に年度計画を立て、実施し、自己評価する。県評価委員会の評価結果を大学運営に反映させる。                  ②各教員の教育・研究・社会貢献の実績調査を実施し、教育・研究・社会貢献一覧を作成し、HPに掲載する。                  ③次期認証評価に向けて、必要なデータを蓄積する仕組みを検討し、認証評価の準備を行う。</p>	<p>1【自己点検・評価の見直しと実施】</p> <p>○教員の教育・研究・社会貢献一覧を作成し、HPに掲載する。                  ○次期認証評価に向けて、必要なデータを蓄積する仕組みを検討する。</p>	1	46
<p>2 広報活動の充実・強化 本学の教育理念、教育・研究内容、社会貢献活動等について積極的に情報公開し、県大ブランド力を高める。</p>	<p>2【県大ブランド力の強化】</p> <p>効果的な広報活動による社会的プレゼンスの向上・メディアとの包括連携の推進を図る                  ①魅力あるHPの充実                  ②県大ブランドとなる教育プログラム等の積極的広報                  ③多様な媒体(出版物、マスメディア、車内広告、駅広告などの活用)や出前講義等を通じた広報活動の充実                  ④情報発信体制の整備</p> <p>○達成目標                  ・大学案内パンフレットの作成 :2種類                  ・広報誌の作成 :2回/年 発行                  ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む)20回以上                  良好評価75%以上                  ・教育プログラム紹介の広報活動実績 :3件以上/年                  ・メディアに取り上げられた件数 :地方版5件以上/年                  全国版1件以上/年</p>	<p>1【県大ブランド力の強化】</p> <p>○HPの掲載情報における更新について、定期的にチェックできる体制の構築                  ○見やすさや知りたい情報がわかるHPへの全面的リニューアルの検討                  ○本学の教育プログラムにおける特色ある取組についてHPの教育情報等にて広報を行う                  ○多様な媒体を通じた積極的な広報活動の充実                  ・「大学案内」及び「大学広報」などの広報パンフレットの刊行                  ・高校への出前講義によるPR活動                  ・駅広告の実施                  ○情報発信体制の整備                  ・教職員に対し、学内行事の企画・開催時におけるプレスリリースの必要性について周知徹底                  ・プレスリリースを行う場合、広報部会を通して行い、広報部会も支援する体制を整備</p> <p>○達成目標                  ・大学案内パンフレットの作成 :2種類                  ・広報誌の作成 :2回/年 発行                  ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む)20回以上                  良好評価75%以上                  ・教育プログラム紹介の広報活動実績 :3件以上/年                  ・メディアに取り上げられた件数 :地方版5件以上/年                  全国版1件以上/年</p>	1	47

平成24年度収支計画予算

(単位:百万円)

区分	金額
<b>費用の部</b>	1,961
業務費	1,691
教育研究経費	283
受託研究等	14
人件費	1,394
一般管理費	270
(減価償却費 再掲)	△ 76
<b>収益の部</b>	1,961
運営費交付金収益	1,090
授業料収益	563
入学金収益	121
検定料収益	26
受託研究等収益	11
寄附金収益	0
補助金等収益	4
財務収益	-
資産見返物品受贈額戻入	49
資産見返補助金戻入	11
資産見返運営費交付金等戻入	11
雑益	74
目的積立金取崩額	-

平成24年度資金計画予算

(単位:百万円)

区分	金額
<b>資金支出</b>	2,254
業務活動による支出	1,885
投資活動による支出	33
財務活動による支出	0
翌年度への繰越金	336
<b>資金収入</b>	2,254
業務活動による収入	1,917
運営費交付金による収入	1,090
授業料等による収入	727
補助金による収入	16
受託研究等による収入	11
その他収入	73
投資活動による収入	1
財務活動による収入	0
目的積立金取崩額	-
前年度からの繰越金	336